

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 12 日作成)

委員会名	温暖化対策評価小委員会	主 査 名：下田吉之
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：仙田 満
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	地球温暖化に対する建築分野の対策を整理、総括し、その効果の評価をおこなう。具体的には、生活対策、業務対策(上記2つは専門のWGを設置)都市対策、適応策のそれぞれについて検討をおこなうものとする。2003年度は関連トピックスに関する勉強会をおこない、2年目に各対策のとりまとめを予定している。	
委員構成 (委員名(所属))	下田吉之(大阪大学)、三浦秀一(東北芸術工科大学)、外岡豊(埼玉大学)、大崎仁(日建設計)、金子千秋(鹿島)、鈴木靖文(ひのでエコライフ研究所)、田頭直人(電力中央研究所)、田中俊彦(東京電力)、外崎真理雄(森林総合研究所)、中野幸夫(電力中央研究所)、吉田聡(東京ガス)、依田浩敏(近畿大学)	
設置WG (WG名:目的)	生活対策WG 住宅および家庭生活における温暖化対策の評価 業務対策WG 業務用建物における温暖化対策の評価	
2003年度予算	85,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第1回(4月13日 10名)、第2回(5月29日 10名)、第3回(6月6日公開勉強会 21名)、第4回(9月9日 13名)、第5回(10月30日 9名)、第6回(12月20日 気候ネットワークとの共催シンポジウム、30名)、第7回(1月30日 9名)、第8回(3月8日 12名)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 都市対策として6月に開催された世界ガス会議東京大会の特別イベント「環境調和型都市コンペ」で最優秀賞を受賞した Sebastian Mofatt 氏を迎えた公開勉強会を開催、12月には環境NGO 気候ネットワークとの共催で生活対策に関するシンポジウム「地球温暖化防止型ライフスタイル」を共催し、前者は多数の委員外参加、後者は多数の市民参加があり好評であった。この他通常の委員会でもイギリスの住宅温暖化対策(中嶋WG委員)、森林伐採の温暖化効果評価方法(外崎委員)、ライフスタイルの転換と住宅の省エネルギー(秋田県立大学源城かほり氏)、住宅部門の温暖化対策評価・環境理想都市構想について話題提供を受け、関連対策の整理をおこないつつある。更に生活対策では県別・エネルギー種類・熱用途・建て方別エネルギー消費量・温室効果ガス排出量詳細推計、世帯類型や住宅構造の差異を考慮した都市レベル住宅エネルギー最終需要モデル構築と各種削減対策の評価を、業務対策では建物用途・エネルギー種類・熱用途・県政令市別エネルギー消費量・温室効果ガス排出量推計と各種対策削減効果評価をおこなった。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 本委員会の目的は極めて広範であるが、上記目的に掲げた4つの分野それぞれについて検討が着実に進んでおり、十分な成果があったと考えている。来年度を目前に4つの対策それぞれについて一応のとりまとめをおこない、その後大会研究協議会等での発表や出版などを考えていきたい。
その他評価すべき事項	日本の建築分野における適応策について Building Research & Information に依頼原稿を投稿し、本年度出版された。